

風五月味付海苔が上顎に

(山本あかね)

一瞬の風のいたずらで海苔がぴたっと上顎に貼り付いた経験が誰しもあるだろうが、句に出来たのはお手柄。五月のさわやかな風が品のよい滑稽を醸し出している。

その日より去年に戻る更衣

(彦阪義久)

更衣は新しい服とは限らない。去年の今頃をこの服から思い出している。逆の発想も滑稽を生み出す。柔軟な頭の持ち主。

時の日や腕にはめたる司令塔

(前川敏夫)

人間は腕時計に知らず知らずに指図されている。また時計があるから無駄に過ぎない。ふっと時の日に感謝している作者。ずばり、司令塔が愉快。